



あゆみ

No. 150

令和元年 10月16日

編集 発行：茶山寮・第二茶山寮

天草市本町下河内 680

TEL 0969-22-5339・0969-22-1766

FAX 0969-22-5090



皆で協力し
ここまで来た
百五十までのあゆみ

『あゆみ一五〇号によせて』

施設長 飽田 一夫

さわやかな季節になりました。いろいろな活動に最適の時期を迎え、施設での日常活動も戸外に出て行くことが多くなり、利用者の皆さんにも楽しみが増えました。

さて「あゆみ」が一五〇号になりました。上の写真はその記念に、茶山寮・第二茶山寮みんなで撮った記念写真です。実は一〇〇号の時も同じような記念写真を撮りました。その時の写真が施設長室に飾ってあります。一〇〇号は平成二三年六月に発行されました。八年前です。その時の写真に写っていて、今回の写真にはもういない利用者の方が一五名いらっしゃいます。その方々のほとんどが死別です。そのことに八年という歳月の長さを実感しています。

その後、平成二四年に障害福祉の体系が変わり、更生施設だった茶山寮、授産施設だった第二茶山寮は、ともに障害者支援施設として再出発することになりました。障害福祉の施策は近年ネコの目のように変化が激しく、多くの種類のサービスが生まれ利用者のニ

ーズ、障害の程度に細かく対応したサービスが受けられるようになってきています。そのこと自体はとても良いことなのですが、茶山寮、第二茶山寮のような入所施設は増えていません。国が標榜している「共生社会」では、障がい者も健常者と社会の中で共に生きることが理想とされているからです。

「共生社会」が実現すればそれは素晴らしいと思います。「茗荷村見聞記」という本をご存じでしょうか。映画化もされました。私はその本を読んで理想郷だと思ったことを覚えていています。しかし、実際にはこのような入所施設はどこも一杯で待機者もいるほどです。やはり、どうしても二四時間お世話の届く入所施設は必要です。そこに携わる者の一人として、私はこの施設の運営に誇りとやり甲斐を感じています。

今回の写真に写ることのできなかつた一五名の方々を皆で見送ってきたように、これからも何人かの方とお別れしながら、ここでの利用者や職員との生活は続いていくことと思います。その生活を大切に守っていくことを本分として、二〇〇号を迎えたいものです。



『プロフェッショナル』
支援課長 瀬崎 哲也

第二荅山寮には、プロフェッショナルな利用者の方がたくさんいらっしゃいます。今回、その一人を紹介したいと思います。その方は五十代の女性で、私はその人の事を挨拶の達人(プロ)と呼んでいます。

毎朝玄関に立ち、出勤した職員の間をしっかりと見ながら、笑顔で、しかも大きい声で「おはようございます」と自分から一人ひとりに挨拶をして下さいます。当たり前のようで、中々真似ができるものではありません。挨拶の語源は、「二挨拶」。「挨拶」は心を開いて近づく、「拶」も同様に、迫る、近づくという意味があります。挨拶は「心を開いて相手に近づく」という意味です。素直に挨拶ができることは、人間本来の姿であり、人間社会の秩序の基であるとの教えがあります。

先日、研修会に参加した際、講師の方から「専門職である前に人であれ」というお話がありました。とても印象的であり、感銘を受けたのを昨日のように覚えてます。挨拶は、空気のように、特に意識せず毎日している人が多いと思いますが、大切な仕事という意識でやってみてはどうでしょうか。笑顔で相手を見て、明るく大きな声で「おはようございます」と挨拶をする、印象が変わると思います。達人Mさんのように、その挨拶でみんなを幸せに出来るとしたら、素晴らしいことだと思いますか。



『利用者への取り組み』
支援員 松山 憲士

私が荅山寮に入職して半年が経ちました。障がいを持った方と接することはあまり経験がなく、不安と緊張の毎日であつという間の半年間でした。障がい特性も様々で一人一人接し方は違い、コミュニケーションが上手く取れず戸惑いましたが、利用者の方々は朝出勤すると「おはよう」と新人である私にも笑顔であいさつをしてくれました。その時に私は、利用者の方々と接する時は笑顔で心がけることを決めました。

私は、四月から二名の方を担当をさせて頂いていただいています。前担当から支援内容を引き継いだものの最初のころは仕事を覚えることで精一杯でした。しかし、利用者の方にとって新人は関係ありません。今は、利用者の方ができるだけ不自由のない生活が送れるような支援を考えて行っています。「〜へ行きたい」「〜が欲しい」などの要望を伝えて来られることがあります。全て叶えることは難しいですが、少しでも利用者の願いが叶えられるように他職員の方達にアドバイスをもらいながら支援しています。ジュースを好きな時に飲む。お菓子を好きな時に食べる。私達にとって当たり前なことが利用者の方々には楽しい、嬉しい一時なのだ日々感じています。そんな一時を増やせるように利用者の方と向き合い、より良い支援をしていきたいと思えます。笑顔が笑顔を作る。たくさん笑顔で溢れる施設を目指してこれからも頑張ります。



『利用者への取り組み』
支援員 和田 卓巳

私が担当させていただいている利用者さんへはスタンプカードを活用して

ます。活動へ参加された時に押し、スタンプを貯める事により、楽しみである自転車での外出を行う予定です。始めはスタンプを押して欲しいと伝えるだけで、なかなか活動参加へはつながりませんでした。イラストや紙に書いて説明したりと工夫しながら取り組みました。最近では積極的に活動に参加される様になりました。しかし、苦手な活動の際は何分も続かずにホールや居室に戻ってしまう事もあります。その様な時には一緒にしたり、時間を区切り休憩をして落ち着く時間をもつことで再度活動に取り組みしています。苦手な事にも諦めず取り組んでいる姿には、日々感動する思いです。日常生活では、なかなか落ち着いて過ごす事が出来ず常に動いておられ無断外出等される事もありました。不安定な時には、時間を作り気分転換を図る為ドライブへ出かけたり、好きな物を書いて伝えるように紙に書いて貰い、本人がしたい事などの話を聞きその為をクリアしないといけないかを二人で話し合いながら情緒の安定を図りました。現在でも不安定な状態は見られませんが、以前と比べ落ち着かれ他者と仲良く話す姿も見られています。少しずつですが、施設の暮らしに慣れられ自分で楽しみ方も見つけられている様子です。今後も、本人らしい暮らしが出来るような活動、外出が出来るように職員全員でフォローし合いながら本人のレベルアップを目標に日々支援して行きたいと思えます。まだまだ、取り組みとしては簡単なものですが、成功体験を積んで自信に繋げて貰い、将来の希望であるグループホームの方にはばたいて欲しいと思えます。



『美化生活委員会』

支援主任 井立 眞実

美化生活委員会は、“美化意識を高めよう”を今年度の重点目標に、整理・整頓・清掃・清潔・緑の5S運動と3R運動のリデュース（ゴミを減らす）リユース（まだ使える物は繰り返し使う）リサイクル（資源として使用する）を上げ活動しています。

日々の活動としては、利用者さんの整容の調整や、日用品の発注と管理、買い物計画や施設の大掃除計画等を行っています。その中に週一回行う寝具交換がありますが、利用者さんの中には全て自分で交換が出来る方もいらっしゃれば、枕カバーだけを交換できる方、包布の中に上半身を入れて、ゴソゴソと一生懸命に作業する中迷ってしまわれる方、皆の汚れたシーツ類を集めて回る方と様々で、自分の出来る範囲で出来ることを職員と一緒に頑張って頂いています。また日々の掃除では、皆が集めたゴミを「行くよ。ちよつと待って」と張り切って掃除機で集めて回る利用者さんいらっしゃり賑やかに活動しています。3R運動では、職員や利用者さんの傷んだ衣類をカットして、ウエスとして汚物処理や掃除等に再利用しています。また、電化製品の不具合があると機械に詳しい職員が修理してくれますし、棚が欲しいとなれば大道具片手に作ってくれたり、修理してくれる器用な職員もいます。このように職員と利用者さんと共に、それぞれの出来ることを協力して行い、利用者さんにとっては生活空間の、職員にとっては職場環境の改善に努めています。



『HOWDY Good Foods Fair 2019』

栄養士 高辻 啓太

八月二日、グランメッセ熊本で開催されたHOWDY Good Foods Fair 2019に参加してきました。ハウディとは業務用食品全般を扱うメーカーで今回は新商品やおすすり商品の展示会と「食べられない」から「食べられる」を叶えるためにと「HACCPの制度化について」の二つの講演会がありました。

展示会では加工食品や冷凍食品の展示、新商品の提案が行われていました。下処理済の食材などはうまく献立に取り入れることで少ない人数でも手の込んだ料理が作れたり、秋冬に向けての新商品もレストランやホテルで食べるような本格的な食材や調味料も多く展示されており、実際に試食して美味しかったものは利用者の方に食べて頂くとうと、十月からの献立に反映していると聞きます。講演会では、美味しい食事を口から食べるということは私たちにっては当たり前ですが、それが難しい方に向けての栄養面や食事内容についての話がありました。苔山寮、第二でも高齢化に伴う誤嚥性肺炎で入院され、退院後はソフト食やミキサー食などの嚥下調整食に変更となる方が増加傾向にあります。当施設では出来る限りソフト食やミキサー食を手作りしていますが、いかに低栄養を防ぎ、安全で美味しい食事を作れるかが常に課題としてありますので、今回の講演で学んだ事をふまえて栄養面、安全面、見た目、味についてもクオリティーを上げていき、食事をされる利用者の方の満足度の向上に繋がればと思います。



『アンガーマネジメント 研修会に参加して』

支援員 鮎田 華代子

アンガーマネジメントとは、アンガー（怒りの感情）をマネジメント（上手に付き合う）ための心理トレーニングです。今回は社会福祉従事者を対象にした講義・演習を受講させて頂きました。特に印象に残ったことは、怒り発生のメカニズムというところです。①衝動のコントロールでは、人は出来事から怒りの感情のピークに達する六秒の間に感情のまま言い返したり、行動した後悔する事が多いそうです。そこで六秒をやり過ごす方法を考えました。②思考のコントロールでは、自分の「境界線」許容範囲を広げるための三つの努力として、出来るだけ大きくする、安定させる、人に見せる（私はここからは怒りませんよと伝える）というものがありました。せめて、少なくとも、最低限という心持でいけば相手に求めすぎることなくストレスを減らす事が出来ます。③行動のコントロールでは、最近怒った出来事を書き出しそれが自分でコントロール可能なら具体的に自分が行動に移す、不可能なら対処方法を探します。また後半ではアサーティブコミュニケーションや、DESC法（問題解決のためのアサーション）等怒りを上手に伝えるための技法をグループ討議しました。今回の研修で私が得た事は、怒りの中の「べき」という思い込みに気付き、訓練を重ねる事で考えや行動は変える事が出来る事ということです。このことをチーム支援に活かせるように努めていきます。

敬老・長寿のお祝い

～ハーモニカ交流会～

9月18日

【芥山寮：31名】

伊津野縫子さん（85歳）	長川 清孝さん（84歳）	砥上 武子さん（83歳）
岡部 亮一さん（82歳）	江口 昭美さん（80歳）	稲田キヨ子さん（80歳）
開田キミエさん（80歳）	安谷 紀子さん（80歳）	西田 廣幸さん（71歳）
梶 敬治さん（69歳）	中村 英子さん（72歳）	新谷八重子さん（71歳）
堤 佳子さん（71歳）	赤星 信一さん（69歳）	小田 義隆さん（69歳）
小野寺富江さん（68歳）	祝原 光則さん（68歳）	福島千恵子さん（68歳）
大塚 治代さん（67歳）	栗原 節子さん（67歳）	今井 次男さん（66歳）
内古閑元雄さん（67歳）	島田 盛二さん（67歳）	富丸 忠雄さん（67歳）
松本 隆さん（67歳）	金子 順子さん（66歳）	龍野 哲郎さん（65歳）
前田の婦子さん（65歳）	光井 正敏さん（65歳）	岡本 幸代さん（60歳）
立山るい子さん（60歳）		

【第二芥山寮：12名】

菅原 道正さん（81歳）	柴田 勝則さん（75歳）	山隈 孝也さん（73歳）
井手口秀彦さん（75歳）	藤井 良雄さん（71歳）	古川 秋男さん（71歳）
祝原 和則さん（70歳）	大久保實也さん（70歳）	宮崎 敏次さん（69歳）
山口 忠明さん（67歳）	里 信之さん（66歳）	坂口 保代さん（65歳）

【GHはばたき：4名】

浦本 昭男さん（76歳）	松本 良勝さん（73歳）	村本 政春さん（72歳）
中村 勇さん（66歳）		

【GH浜荘：2名】

鬼塚 豊志さん（76歳）	嶽坂 安男さん（76歳）
--------------	--------------

【長寿のお祝いを受けられた方：8名】

江口 昭美さん（傘 寿）	稲田キヨ子さん（傘 寿）	開田キミエさん（傘 寿）
安谷 紀子さん（傘 寿）	祝原 和則さん（古 希）	大久保實也さん（古 希）
栗原 節子さん（還 暦）	立山るい子さん（還 暦）	



江藤さんのステキなハーモニカ
演奏に皆で癒やされました♪
いつもありがとうございます。



ご家族の皆さんも多数参加して頂
き、利用者の皆さんもとても喜ん
でられました。



『施設親善スポーツ大会』

支援員 塩家 成美

十月六日に、菊池市で行われた施設親善スポーツ大会に参加してきました。ペタンク競技に荅山寮から二チーム、第二荅山寮から一チーム、フットベースボール競技に荅山寮、第二荅山寮、グールプホームの混合チームで参加しました。

選手の皆さんは真剣な表情で試合に臨まれ、好プレー珍プレーがたくさん見られました。結果はというと、惜しくも(?)優勝は逃してしまいました。ですが、持ち前のチームワークと明るさで楽しみながら試合が出来ました。



『フラダンス交流会』

支援員 山崎 愛

一七五回のフラダンスサークルは、講師である池田先生が開催される発表会への出場でした。利用者の皆さんとても楽しみにされ、毎日の練習にも熱が入りました。「もう一回して終わろう」と納得いくまで頑張っておられました。本番では緊張した様子でしたが練習以上にうまく発表することが出来ました。

最初から最後までお客さんから手拍子をして頂き終わった後は沢山の拍手をして頂き「上手だったよ。よかった。」

とお褒めのお言葉も頂きました。「また来年も出たい」との声も聞かれました。今後は、啓明会秋祭りに発表する予定です。皆さん見に来てください。



『利用者セミナーに参加して』

支援員 元島 加良子

九月二六日、宇城市のウイングまつばせにて利用者セミナーが開催され、荅山寮からおしゃれ好きな女性利用者の方二人が参加されました。

会場では美容学校の生徒さん達が一人ひとりに合ったお化粧やヘアセット、ネイルを施して下さい、お化粧した自分の顔を鏡越しに見て嬉しそうに照れておられたのが印象的でした。記念写真を撮るブースも設けてあり、二人ともブーケを持ち、花の冠をつけたり思い思いのポーズで写真を撮りました。その他にもビーズのブレスレットやミサンガを生徒さんと作りお土産に頂いて来ました。又ゲームも楽しまれ、ここでもアクセサリーのプレゼントが。そしてセミナーのクライマックスはレッドカーペットのランウェイです。男性生徒さんのエスコートで腕を組み、時折ポーズを決め、プロのファッションショー宛らの歩きを披露されていました。「又行きたい」との言葉も聞かれ最高の一日でした。



【新利用者紹介】



園田 幸子さん
十月一日より、苔山寮を利用していただいています。とてもオシャレで塗り絵が得意な幸子さん、一緒に楽しい時間を過ごしていきたいきましょう。

【新職員紹介】



濱 妙美さん（苔山寮支援員）
初めての仕事なので戸惑うことがあります。一生懸命取りくんでききます。



川口 真由美さん（苔山寮支援員）
同じく初めての仕事になりますが、先輩や利用者さんに負けないくらい明るく元気に頑張ります。



田中 美奈子さん（苔山寮看護士）
有明町出身です。利用者さんがぬくもりを感じられる看護ができるように頑張ります。

九月二一日に行われた障害者オセロ大会にて、利用者の田副朋也さんが見事五位入賞されました。予選リーグは一位で通過。決勝リーグでも熱戦を繰り広げられました。来年は優勝出来るように頑張りたいと思っています。



【お祝い】

苔山寮職員の池田隼人さん、真子さんがご結婚されました。おめでとうございます♥



シリーズ1

日常生活の風景



前田 の婦子さん

担当職員が入院したので、前田さんから「早く良くなつて欲しい」と願いを込めた千羽鶴を作り渡す事になりました。早速折り紙を渡すと、手先が器用で折るスピードが速く、職員が鶴を繋ぐのが間に合わない程でした。毎日毎日職員室に来ては鶴を折り続け、一カ月足らずで千羽折りあげ、一メートルもある千羽鶴が出来上がりました。鶴は直接担当の家に行き手渡す事が出来ましたが、千羽鶴は今も担当の家に飾つてあるそうです。



坂口 保代さん



手先が器用で編み物が大好きな保代さん。毎日、編み物を楽しんでおられます。色とりどりの毛糸を使い、カラフルなクッションカバーや手提げバッグなど、沢山の作品を作つてこられました。昨年は障がい者芸術展にバッグを出品する事が出来、照れながらも、とても嬉しそうな保代さんでした。

行事予定

十月

- 二六日 啓明会秋祭り
- 二七日 あまくさ福祉祭り（出店）

十一月

- 十三日 配置医来寮
- 十六日 創立記念交流会
- 十七日 あぐりフェスタ（出店）
- 二三日 本町ふるさと祭り（出店）
- 二七日 各種癌健診
- 二九日 ひまわり薬局

札幌本郷子様講演

編集後記

秋です。私事ではありますが、六月に入籍をしまして、今月結婚式を上げる事ができました。たくさんの方の祝福を受け、とても幸せな時間を過ごすことが出来ました。そして妻のお腹の中には、赤ちゃんがいます。早くあむあむしたいと思う、はやる気持ちを抑え元気な子が産まれて来るのが楽しみでなりません。産まれて来る子を早くあむあむしたい。

